

# バイオトイレを寺院に

## 静岡のNPOなどネパールに寄贈へ



GW三島の渡辺豊博専務理事(右端)の説明を聞く(左から)石岡博実ネパール日本友好協会名誉会長、バツ・ナラヤン・スレスター大臣秘書ら＝静岡県三島市で

ネパールの首都カトマンズの世界文化遺産の寺院に来年3月、静岡県三島市のNPO法人・グラウンドワーク三島(GW三島)などの力で、微生物を用いてし尿を処理するバイオトイレが設置されることとなった。GW三島は数年前に現地にバイオトイレを寄贈する計画を立てたが、2015年4月のネパール大地震のため計画が中断していた。

【石川宏】

### 「意識改革つなげたい」

バイオトイレが設置されるのはヒンズー教寺院のパシュパティナート寺院。聖なる川とされるバグマティ川に隣接し、外国人も多数訪れる観光地だが、トイレは不衛生だった。GW三島は富士山にバイオトイレを設置し環境を改善させた実績がある。この実績をネパール日本友好協会(大月市)の石岡博実・名誉会長が知り、ネパールの状況を相談。ネパールの大統領や首相にも面談し、バイオトイレ寄贈が動き出したところだ。大地震が起きたとき、計画が止まっていた。バイオトイレは、し尿を汚水槽、嫌気槽、曝気槽へと送り、微生物やバクテリアが複雑な有機物を単純な有機物へ、有機物を水と窒素ガスなどへと分解する。1日400人分のし尿を分解処理可能な規模にし、水洗トイレ2基を設置する予定だ。設置には設置整備費など1000万〜2000万円が必要だが、三井住友建設が企業の社会的貢献の観点から費用の大部分を負担する。同社は国連のSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みを推進しており、「安全な水」とトイレを世界中に「SDGsの17目標の一つになっている。11月27日、ネパールから一行が三島を訪れ、GW三島、ネパール日本友好協会などとバイオトイレ設置の細部を詰めた。ネパール文化・観光・航空省のバツ・ナラヤン・スレスター大臣秘書は、「ネパールは年間200万人の外国人観光客を受け入れを目標に掲げている。きれいなトイレは一番大事。バイオトイレ設置で、観光客へのイメージアップとともに市民への環境教育効果も期待している」と述べた。

GW三島専務理事で都留文科大の渡辺豊博特任教授は「汚いトイレをきれいにするだけで安寧な思いで生活できるようになる。トイレやごみに対する意識改革につなげたい」と話した。